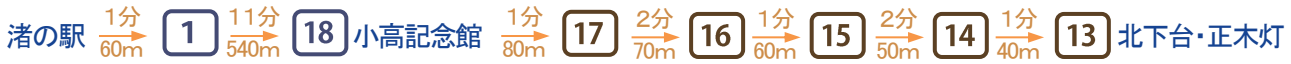


<推奨コース>

Aコース 博物館めぐり。渚の駅～城山公園・館山城・館山市立博物館本館 [距離] 約710m [所要時間] 徒歩約17分



Bコース 渚の駅～小高記念館～北下台・正木灯コース [距離] 約900m [所要時間] 徒歩約20分



<おすすめスポット>



**1** “渚の駅”たてやま(なぎさのえきたてやま)  
 “渚の駅”たてやま(平成24年3月25日オープン)は、館山市を訪れた人々の「安らぎの場所」「憩いの場」として、そして人と人とを結びつけることを目的として整備された交流拠点施設です。



**8** 城山公園・館山城(しろやまこうえん・たてやまじょう)  
 里見氏の居城・館山城跡を戦後に整備した公園です。山頂には天守からの鏡ヶ浦を中心とした市街地が一望できる三層四階天守閣様式の博物館分館、中腹の館山市立博物館と併せて歴史の散策が楽しめます。公園内には季節に合わせて水仙、梅、椿、桜、ツツジ、さつき、あじさい、山茶花などの花木が咲き揃います。頂上付近には万葉集に詠まれた植物を小径に集めた「万葉の径」や「つばきの径」がつくられ、桜、松、梅が配植されています。桜は名所の一つとなっていますので、4月上旬の開花時期は花見客で賑わいます。白砂利の枯山水や小流れをしつらえた日本庭園と茶室は茶会等に利用でき、公園全体が市民の憩いの場となっています。また、芝生広場や児童公園、博物館本館も公園内にあります。芝生広場には、土産処「里見茶屋」もありますのでご利用下さい。



**8** 館山市立博物館本館(たてやましりつはくぶつかんほんかん)  
 戦国大名里見氏の居城跡である城山公園山麓にある本館は、昭和58年11月23日に開館しました。常設展示は、歴史展示室・民俗展示室・子供展示室の3つのテーマがあります。歴史展示室では、江戸時代初めまで安房を支配した戦国武将里見氏について人々の暮らしを交えながら解説しています。子ども展示室では粘土に貝殻や縄で模様をつけたり、タイム制限のある土器復元パズルなどがあり、歴史文化を身近に楽しく感じられるような工夫があります。民族展示室は、分棟型の民家を家具や農具も合わせて再現し、昔の暮らしを体験できるようにしています。季節や曜日によって、甲冑の着用体験や多彩な展示会も開催されています。



**13** 北下台・正木灯(ぼっけだい・まさきとう)  
 頂上の金刀比羅神社の周辺には、古墳時代の遺跡や室町時代のヤグラが掘り込まれた岩の露頭があり、人々の長い歴史を伝えています。それだけでなく、江戸時代には一軒の民家もなかったところへ明治以降は別荘や石碑が立ち並び、文化に目覚め始めた大正という時代の雰囲気も感じさせてくれる場所です。海に面したその山頂の一角に、「正木燈」と刻まれた白い花崗岩の柱が建っています。その文字は明治から大正時代にかけての一流の書家であった小野鷲堂の筆になるものです。裏には文章が刻まれています。そこには船形の正木清一郎が、大正五年に没した父貞蔵の死を悼んで記念に照明塔を建てたことが記されています。この石はその照明塔の基台の部分が残されたものなのです。かつてはこの石に木の柱が立ちアーク灯が灯っていました。「正木灯」と呼ばれるこの照明は館山公園の照明であるとともに、鏡ヶ浦を航行する船の航路標識ともなるものでした。



**18** 小高記念館(おだかきねんかん)  
 千葉県議会議員・衆議院議員でもあった小高熹郎は、詩人のサトウハチローや白鳥省吾とも親交が深く、自らも『里見節』『館山音頭』『南極観測隊の歌』など多くの作詞を手がけています。『里見節』は城山公園に、『鏡ヶ浦』は本蓮寺の小高墓所に、それぞれ記念碑が建立されています。水産業界での貢献も大きく、戦前には館山市館山漁協組合長や北洋漁業挺身団長、戦後には千葉県・日本旋網漁協組合長や全国漁連理事などを歴任しました。晩年は93歳から、北下台ふもとの近代化遺産(大正期建造の旧古川銀行鴨川支店を昭和初期に移築)を活用し、地域の文化向上を目指して'94～'97年にわたり、「小高資料館」を開館していました。

<お問合せ> 館山市観光協会  
 館山市北条 1879-2(JR館山駅東口) TEL 0470-22-2000